

テーマ	将来の科学技術系人材育成のための教育課程		
指定校番号	3034	学校名	兵庫県立神戸高等学校
役職・氏名	主幹教諭・岡田和彦		

## 1. 発表内容サマリー

### 【本校 SSH プログラムで育てる力について】

- ◆全科目を通じて科目の特色のある教科指導が行われ、思考力・判断力・表現力などの力を育むように持続的に行われている。その中で特に SSH の取組に関与している科目をあげると、探究活動に関連する科目になる。
- ◆この探究活動は、表題の趣旨に沿った研究開発を考えるにあたって、平成 20 年度より「グローバルスタンダード（8つの力）」(上図)を定義して、SSH 指定校として、10年以上取り組んできている。そして、それらの効果ははっきりと現れている。この取組が生徒の主体的な活動の基盤も形成しており、卒業生の進路先状況を見ても、進路先決定にかなり有効な影響を与えており、科学技術系の人材育成に向けた取組の中心を成している。
- ◆探究活動に関連する科目は、本校の普通科では 2 年生に「神高探究（総合的探究の時間）」3 単位、総合理学科では 1 年生に「サイエンス入門（理数探究基礎）」2 単位、「科学英語（学校設定科目）」1 単位、「数理情報(情報 I)」2 単位として、2 年生「課題研究（理数探究）」3 単位と 3 年生「課題研究」1 単位の計 4 単位の時間を設けて取り組んできている。(下図)

### 【探究活動を含む SSH の取組について】

- 探究活動を通じて、生徒自らの主体性、協働性そして思考・判断・表現の力をしっかり養成するように以下のような発表・議論・交流の機会として展開している。
- ◆総合理学科では、1 年生ではプレ課題研究発表と英語で行うポスター発表や 2 年生では課題研究をグループ研究として、各班が主体的にテーマを決め、1 年間にわたり研究を積み、中間および最終の発表会で非常に充実した発表を行っている。また、3 年生では校内や校外（学会等）の発表にも積極的に参加している。
  - ◆これら探究活動のサポートとして本校独自で、地域の外部支援者をお願いをして、平成 25 年度よりサイエンスアドバイザー（SA）制度を導入し、シニア人材として NPO 法人兵庫県産業人 OB ネットの方々（現在 4 名）に来ていただいている。あくまで支援することに徹して、企業経験をもとに貴重で詳細な助言をいただいております、非常に有効な成果を上げている。また、ヤング人材として卒業生や近隣の大学院生の方々にも発表会等に協力していただき、適切なアドバイスをいただいている。成果も上がっており、有意義なものとなっている。今後もこの体制がより充実するように協力を深めて研究開発していく予定である。
  - ◆現在の普通科 2 年生の「神高探究」では、1 学期前半をプロジェクト探究 I として特定のテーマを与え、基本的な知識・技法や考え方の基本の習得をめざしている。1 学期後半以降をプロジェクト探究 II として、全クラスを班分けして、班ごとのテーマを各班で決めさせ、文系分野から理系分野にわたって様々なテーマで取り組んでおり、中間発表や最終発表会を行っている。各担当および他の教員がサポーターとなり、アドバイスを適宜しながら進めており、有意義な成果を上げている。そして、現在の 1 年生は 1 単位分のプロジェクト探究 I を行い、早い段階で基本を学ばせ、2 年生になって 1 年間かけてプロジェクト探究 II の内容を行い、さらに研究内容を充実させていく計画になっている。

## 2. 今後に向けて

本校の教育課程では、各教科が基礎力や応用力を養成しているとともに、課題研究を通じて、科学技術系トップ人材育成をめざし、その成果をあげている。SA の活用において協力体制をさらに充実させ深化を図っている。SA と生徒や教師との情報交換を積極的に行い、探究活動をより充実させた形にしている。IV期から本格的に産業人 OB ネットのシニア人材の活用を導入したことで、生徒の「8つ力」の育成において、かなりの効果が出ている。この活用方法を今後もより深化した形で開発研究していき、本校の取組が、地域ごと卒業生や地元の産業界の OB に協力を求め働きかけることで、課題研究の取組を深めるためのモデルとなる。そして、これらのノウハウを他校にも普及していき、その普及の方法も研究開発していく計画である。

